

平成31年度  
 劇場・音楽堂等機能強化推進事業  
 (地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)  
 成果報告書

団 体 名	株式会社猪子石創造文化会館	
施 設 名	株式会社猪子石創造文化会館（うりんこ劇場）	
助 成 対 象 活 動 名	人材養成事業・普及啓発事業	
内定額(総額)	1,917	(千円)
公 演 事 業	0	(千円)
人材養成事業	697	(千円)
普及啓発事業	1,220	(千円)







## 2. 自己評価

### (1) 妥当性

自己評価
<p>社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p> <p>うりんこ劇場は「子どもたちが自分自身に誇りを持ち、生き生きと創造的に生きていける社会」をミッションに掲げ、1 舞台芸術の共有体験を通して、子どもを中心としながら、子ども同士、親と子ども、親同士が結びつきを高め、心豊かで安心安全な地域を形成する、2 表現活動を通して、子どもたちの、自尊心、信頼、コミュニケーション力、協調性、やり抜く力を養い、現代が抱える様々な課題を解決する豊かな人材を育て地域に還元する為の活動を行っています。</p> <p>当館の地域は、毎年人口の 15%から 20%の転出入者、その 6 割以上が市外からという流動人口が多くかつ子育て世帯が多い区です。子どもを中心として人がつながることで安心して豊かに暮らせるよう、0 歳から大人まで対象年齢に合わせた企画が提供できるような取り組みを行っています。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・人材養成事業「D ドラマ・I イン・E 教育エデュケーション～授業の中のドラマ～」は予定通り遂行</li></ul> <p>青少年～大人に対するストーリーテリングのファシリテーター養成ワークショップは講師都合により講師をこふく劇場の永山智也氏に変更したが、ファシリテーターとしての経験値が高い講師であり実施内容は充実した。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・普及啓発事業 絵本からはじまる子どもとおとなのためのホッとタイムは、当初の予定通り進められた。</li></ul> <p>0 歳から 2 歳未満の子どもとその家族のための体験の芸術 BabyTheater による、社会包括の仕組みづくり</p> <p>13 か所の予定から 4 か所に変更。開催を希望する施設はあったが、その施設内に BabyTheater 『MARIMO』実施に必要なスペースが無かったことによる。次年度に向けて作品を現場の状況に合わせてパフォーマンスができるよう演出の変更をした。</p>
<p>人材養成事業</p> <p>「D ドラマ・I イン・E 教育エデュケーション～授業の中のドラマ～」アメリカ・シアトルで実際に DIE の活動に取り組んでいる実演家を招き、日本の教育現場に関わる人たちと共に研究した。このプログラムを子どもたちに提供することで、子どもたちは意欲的に学び、家庭の中で喜びをもって学びについて語ることができる。保護者、地域住民、学校、教師間の相互理解が深まり、子どもたちの抱える課題を学校と家庭、地域で協同解決できる。</p> <p>「青少年～大人に対するストーリーテリングのファシリテーター養成ワークショップ」地域に青少年対象の表現活動の機会が少ないことを受けファシリテーター養成を行う。現代の子どもたちが育つ環境は今の大人たちが過ごした時代とは大きく異なる。子どもたちは今どんなことを考えているのかを知るところから始め、彼らにとって本当に必要な表現活動を創り出す。それは引きこもりや、コミュニケーション障害などの現代が抱える問題の解決の一端を担うものになる。</p> <p>普及啓発事業</p> <p>「絵本からはじまる子どもとおとなのためのホッとタイム」子育て不安や困難、虐待、貧困などの問題が年々増している。子育て施設に、アーティストからのアプローチによる当事業を提供し利用者の関心を高める。支援者とより多くの保護者を繋げ、支援施設は役割をより果たせるようになり安心して子育てが出来る地域となる。</p> <p>BabyTheater 「MARIMO」 家では体験できない芸術体験による気づきは日々の子育ての営みに癒しと創造力をもたらす。子ども同士の交流が大人同士の交流へと繋がり孤独感から解放される。</p>

## (2) 有効性

### 自己評価

目標を達成したか。

#### 自己評価

##### 人材養成事業

- ・名東区内小学生 9700 名が役者体験プログラムに参加する。  
→今年度は 88 名の小学生が参加した。定員 97%達成。
- ・名古屋市内 110 校（名東区・千種区の中学校 14 校）が人材育成プログラムに参加する。  
→日程の都合で、参加ワークショップは次年度に予定となる。
- ・名古屋市内の教員 3200 名が drama in education の実験と実習に取り組む。  
→今年度は、DIE で 17 名の教員が取り組んだ
- ・アンケート回収率 100%にすることで、事業内容についての満足度等のヒアリングを実施する。  
→回収率 100 達成。満足度や具体的課題を聞くことが出来た。
- 内容全体について 96%が満足と回答。
- ・職員が中学生の現状を今までよりも知る。  
→参加者それぞれが、身近に関わる中高生にヒアリングをする事を、講師から提案され、実施した。
- ・ストーリーテリングとは何かを、話す機会を増やす。  
→講座の後に振り返りをして、学びをより深めた。

##### 普及啓発事業

- ・0 歳～4 歳の子どもたちすべてが、年齢に合った舞台芸術に触れる。  
→0 歳～2 歳の子どもたち対象の舞台芸術を提供した。  
→乳幼児向け企画「うりんこっこ」にて 0 歳～4 歳の子どもたち向けの企画を提供した。
- ・名東区すべての乳幼児 3000 人がベイビーシアターを体験する。  
→196 名の親子が体験。
- ・名東区 4 カ所と隣接する区全ての子育て支援拠点 10 カ所でのベイビーシアターの開催。  
→名東区 4 カ所千種区 1 カ所で開催
- ・子育て中の母親がリラックスできる時間をもてたと実感した割合が増える。  
→97%の参加者が内容全体について満足と回答。  
→90%の参加者が子どもを見て、普段と違ったところや気が付いたことがあると回答。  
→64%の参加者が自身のことで新たな気が付きがあったと回答。  
→89%の参加者がこの体験が日々の子育てに役立ったと回答。  
→96%の参加者が 0 歳から 24 ヶ月未満の子どもにも、アーティストによるパフォーマンスが必要と回答。

事業が有効であったことが認められる。

### (3) 効率性

#### 自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

・人材養成事業は「D ドラマ・I イン・E 教育エデュケーション～授業の中のドラマ～」は実施期間、回数、事業費共に当初の計画通り実施できた。助成により6月にシアトルからの講師を呼び、専門的かつ実践的な学びができた。6月の発展として8月プログラムを設定できた。シアトルからの講師と日本の講師がそれぞれのシアターゲームプログラムの実践提案時間を設け意見交流ができた。

「青少年～大人に対するストーリーテリングのファシリテーター養成ワークショップ」は実施期間、回数、事業費共に当初の計画通り実施できた。1月と3月2期に分けて実施した。参加者が課題を持ち帰り次回への準備をして2回目を迎えることが出来たことは非常に有効であった。

#### ・普及啓発事業

「絵本からはじまる子どもとおとなのためのホッとタイム」は回数、事業費共に当初の計画通り実施できた。

「0歳から2歳未満の子どもとその家族のための体験の芸術 BabyTheater による、社会包括の仕組みづくり」実施回数を13回から4回に変更。本事業は子どもを自由にさせてもよい環境を作ることが最も重要な条件である。開催を希望する施設は多くあったが、その施設内に BabyTheater 『MARIMO』のパフォーマンスを安全に行うために必要なスペースがないことで断念せざるを得なかった。次年度に向けて、会場のスペースに合わせ実施できるような演出に変更した。

取り組む側から12ヶ月を過ぎると保育園に通う子どもが多くいることから保育園での実施を望む声が上がった。保育園での実施も今後視野に含むことを考え、BabyTheater 『MARIMO』を名東保育園でも試みた。「絵本からはじまる子どもとおとなのためのホッとタイム」も同様に取り組む。

## (4) 創造性

### 自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

#### 自己評価

自己評価目標を達成したか。

・人材育成事業「D ドラマ・I イン・E 教育エデュケーション～授業の中のドラマ～」では、名古屋市内小学校260校すべて、愛知県内の近隣小学校に広報した。県内外問わず共催者、劇団うりんこの公演先でも広報した。SNSによる情報発信をした。それにより、教員だけでなく、県外の方や、うりんこ劇場を知らない方の参加にもつながった。2018年に実験的に「国語」「理科」「算数」の教科における研究に取り組んだ。その時参加の実演家、教職員に再度声かけをして今回の参加へとつなげた。ほぼ全ての教員が、授業で活かせると回答した。うりんこDIE研究チームにDIE実践を望む学校があり次年度実施となる。同じく、公益財団法人名古屋市文化振興事業団【千種文化小劇場】と共同で地域の子どもを対象としたDIE事業を行うことが決まる。「青少年～大人に対するストーリーテリングのファシリテーター養成ワークショップ」では、子どもの目線に立った作品創造をするために、現代の思春期の子ども達の興味関心悩みなどのリサーチや脳科学の観点から思春期の心身の発達状態を学ぶところから始めた。中学校演劇祭の開催、高校演劇部の指導などを長年行っている劇団うりんこの協力を得て、子どもたちへのリサーチを行ってもらった。創作する小作品、及びワークショッププログラムは、必要としている現場の受け入れ条件（時間、実施場所、参加人数）に対応できる規模にすることを前提とし進めた。小人数グループ、円形の客席、3人のパフォーマーによる様々な表現方法での語り聞かせは、様々なニーズに応えるものになる感触を得た。参加者からこの取り組みへの継続希望が上がっている。

#### ・普及啓発授業

「絵本からはじまる子どもとおとなのためのホッとタイム」では、地域の子育て支援センター、児童委員、エリア支援保育園の主査を通じて、近隣保育園、子育て中の親子に情報提供をした。参加する子どもの月齢を事前に確認しカリキュラムを再検討した。3回以上のプログラムで取り組めたことで参加者一人一人と対話し、変化を見守る中で、親同士、関係施設担当者とのつながりが出来た事は、安心して子育てが出来る地域づくりに繋がったといえる。大人のための読み聞かせは予想以上に好評だった。常に子ども最優先の子育て中の親にとって、親のための時間をわずかでも提供することが必要だと強く確信した。90%以上の親が、日々の子育てに役に立たと回答。90%以上の親がリラックスできることは勿論、子どもや自身を客観的に見ることが出来き、日々の子育てにゆとりが持てたと感じている。BabyTheater『MARIMO』でも上演前のコミュニケーションタイムから始まり、上演後は子どもの遊びと余韻を楽しめる時間を設け、子ども、保護者が交流できる時間を持つことで、参加者に同様の効果を得られている。ベビーシアターの環境や定員設定が乳幼児の成長発達の観点から考えられていることを関係職員が学んだことにより、今後地域で企画される子育て支援の活動は、より考えられた良質のものとなる。チラシ作成は保護者の興味関心を高める大きな効果となった。両事業共、子どもを自由にさせる環境を作ることが最も重要な条件である。助成を受け、安全への配慮が出来るスタッフを付けることが出来たことは成果を生んだ大きな要因である。すべての事業に共通して、記録紙を作成することができ、具体的に活動を知らせ実践を呼びかけていく長期的活動を行う準備が出来た。

## 自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながっていた（と認められる）か。

### ・人材育成事業

「D ドラマ・I イン・E 教育エデュケーション～授業の中のドラマ～」ではシアトルから実績のある講師を呼び、専門的かつ実践的な学びが出来た。シアトルからの講師と日本の講師、それぞれのシアターゲームプログラムの実践提案時間を設け意見交流もした。参加者86%が学校教育の中で生かせる、演劇の手法をつかった学習のプログラムができたと回答。「青少年～大人に対するストーリーテリングのファシリテーター養成ワークショップ」では参加者の83%が思春期の子どもへの表現活動のアプローチ方法を模索することへの興味意欲が高まったと答えている。

### ・普及啓発事業

「絵本からはじまる子どもとおとなのためのホッとタイム」を取り組む側からは、予算が無くプロの俳優による取り組みは諦めていたが、今回実現し多くを学べたことを喜ぶ声があった。実施の様子を民生子ども課の担当者に複数回視察をしてもらい普及啓発事業の有効性を認めていただいた事で、次年度は共同で取り組むことも決まった。BabyTheater『MARIMO』は、乳幼児のための舞台芸術がこの地域ではよく知られていないことや、衛生面、安全面、健康面が配慮された環境が必須であることから、取り組む機会を得にくい現実を抱えている。そうした中、助成と関係機関の協力を得て4カ所で実現が出来たことは大きな成果である。パフォーマンスは0歳から2歳の乳幼児の医学的及び科学的根拠に基づく知覚の発達を踏まえ、子どもに通じる身体、言語、空間表現を模索し創作されている。乳幼児がパフォーマーを模倣する、積極的にかかわろうとする姿を見た参加者や関係者から驚きの声が上がっていた。アンケート「0歳から24ヶ月未満の子どもにアーティストによるパフォーマンスや舞台芸術が必要だと思うか」の質問に96%が「はい」と答えた。ベイベーシアターの環境や定員設定が乳幼児の成長発達の観点から考えられていることを関係職員が学んだことにより、今後地域で企画される子育て支援の活動はより考えられた良質のものとなっていく。宮根学区では30分で申し込みが定員数に達し、その他の会場も数日で定員数に達しキャンセル待ちとなった。取り組む施設職員からこれまでにない事だと驚きの声が上がった。定員数が限られている為、事前に参加者に確認の電話を入れ子どもの健康状態を聞き、キャンセルが出た場合は、キャンセル待ちの方に参加してもらい、1月のうりんこ劇場での公演はステージ数を増やしキャンセル待ちを受け入れするなど、参加者に対して丁寧な対応をした。名東区のエリア支援保育所事業と連携して開催した講座「乳幼児が舞台芸術に触れる意味 ベイベーシアターが地域にもたらすもの」(ジャッキー・e・チャン)は、母親や保育士、子育てに関わる人たちに大きな学びと励みになったことがアンケートから伺える。体験してわかる舞台芸術の重要性を言葉で伝える時にとっても役に立つという声を多くいただいた。

### (バリアフリー・多言語対応について)

ベイベーシアター『MARIMO』「絵本からはじまる子どもとおとなのためのホッとタイム」共に多感覚な手法によるパフォーマンスなので、多様なニーズを持つ子どもにも対応ができる。取り組む施設に多様なニーズがある子どもや親がいても受け入れ可能な旨を知らせた。外国の親に対して、アンケートを英語版を用意した。

## (5) 持続性

### 自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展した（と認められる）か。

うりんこ劇場は「子ども達が自分自身に誇りを持ち、生き生きと創造的に生きていける社会」を目的とし、子どもと共に、全ての世代が、つながり、育つ劇場をめざして活動をしている。

1 【乳幼児から青少年の為の創造発信事業】 2 【人材養成事業】 3 【普及啓発事業】 4 【公共ホールの連携事業】の柱で事業を展開している。

普及啓発事業は、0歳から2歳の乳幼児とその保護者を対象とした。「舞台芸術活動が必要である」という、そのものが成熟していない。必要性は非常に高い費用対効果が非常に低いこの分野においては助成金はなくてはならない。

事業後参加者の自主的な学習会の取り組みが予定されていたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響の為実現していない状況があり残念である。収束後に再計画し持続的な活動に繋げていきたい。

月に一度、SNSや後援会員への情報提供をし、事業等の様子を報告している。

定期的に、外部スタッフや劇団うりんこの若手劇団員と職員で、ITを活用した広報の研究をしている。

全ての事業においてアンケートを実施し、事業内容を数値化した。

名古屋市、名東区の行政機関の子育て支援担当者と繋がり、持続的に発展できる協力者を得ることができた。

講座をしたことで持続的に創造的に活動し続ける支援者を得た。

業務分担を明確化し、効率性を高めた。

公益財団法人名古屋市文化振興事業団、名古屋市名東区民生子ども課と連携して事業に取り組む。